

フォーラム開催報告

平成 25 年度 九州沖縄地域マッチングフォーラム開催報告

九州沖縄地域マッチングフォーラムを9月4日（水曜日）に大分県別府市の立命館アジア太平洋大学（APU）で開催しました。開催当日は台風17号が近づき、朝方は雨風が心配な状況でしたが、昼頃には天候が回復しました。台風のため参加できなかった方もいたようですが、フォーラムには250名前後の方が参加しました。

今年のテーマは「地域の明日を拓く新品種の開発と普及」です。新品種を普及して活用するには研究者と実需者のマッチングが大切な“鍵”とすることがあります。そこで、最近話題のさつまいも新品種「べにはるか」、新食感カンキツ新品種「大分果研4号」、鉢物用わい性トルコギキョウ「チェリービー」および黒大豆新品種「クロダマル」を事例にフォーラムを行いました。

さつまいも新品種「べにはるか」では、当センターサツマイモ育種研究グループの甲斐主任研究員が育成の背景、来歴、特性を講演し、その後、大分県農業協同組合の原田氏が「べにはるか」の外観や甘さに着目し、「甘太くん」のブランド名で産地育成に取り組んだ経緯などを講演しました。研究者の「べにはるか」育成のねらいに実需者も着目し、さらに特徴を活かす出荷などの工夫をしたことが「甘太くん」の産地形成につながったようです。

新食感カンキツ新品種「大分果研4号」では、大分県農林水産研究指導センターの信貴研究員が育成のねらい、特性を講演し、その後、前大分県柑橘研究会長の川野氏が「ゼリーオレンジ・サンセレブ」

の愛称で販売活動に取り組んでいる経緯を講演しました。消費者ニーズの多様化の中で年内出荷とゼリーのような食感の新品種を新しいブランドにするため、生産者もさまざまな活動を行っていることが紹介されました。

鉢物用わい性トルコギキョウ「チェリービー」では、大分県農林水産研究指導センターの富満研究員が遺伝資源を活用した品種開発と商品化のねらいを講演し、その後、大分県高級鉢花研究会の穴井氏が「チェリービー」を導入した背景や新商品として出荷するまでの取り組みを講演しました。気象条件の異なる地域の生産者がインターネットなどを活用しながら同じ品質の商品を協力して出荷する取り組みも紹介されました。

九州向き黒大豆「クロダマル」では、当センターの後藤主任研究員が黒大豆の産地のなかった九州地域で新品種「クロダマル」をどのようにして定着させ、ブランド産地をつくっていったのかを講演し、その後、全国農業共同組合連合会大分県本部の後藤氏が生産現場での取り組みを、実需者の千成堂の河口氏が関連商品の開発の経緯をそれぞれ講演しました。新品種の産地形成では、生産者と実需者の橋渡し、商品のプロモーション、さらには需要に見合った生産確保の重要性が指摘されました。

総合討論を含め、このフォーラムが多くの方々への参考になったこととおもいます。最後になりますが、あいにくの天候にもかかわらず、多くの方々に参加いただき、誠にありがとうございました。



フォーラム会場（APUのミレニアムホール）



座長、発表者による総合討論